

公立大学法人静岡社会健康医学大学院大学評価委員会

令和6年度第2回 会議録

令和6年8月8日(木)
グランディエールブクトーカイ

午後1時27分開会

【会議開始】

- ・石巻委員欠席、5名中4名出席により会議成立

【議題1 委員長の選任及び委員長代理の指名】

- ・推薦意見により、塩田委員が委員長に就任
- ・塩田委員長は中西委員を委員長代理に指名

【議題2 令和5事業年度に係る業務の実績に関する評価結果について】

- ・資料1-1、1-2を元に事務局説明

○委員長

資料1-1 検証結果（暫定版）について御意見をいただきたい。

○委員

初めての評価で目標との差は大きいですが、現時点ではこの評価で妥当と思われる。今後の精査が大事になると思われる。

○委員

検証結果案に対して意見はない。感想として、良い人材のリクルートが素晴らしい業績につながっているところがあり、評価すべき点と思った。

○委員

学生の募集活動を目の前で見させてもらったが、専門職にあった将来像を描けるような魅力的なプレゼンテーションをしていた。今後の募集活動に期待したい。

○委員長

期待通り、期待以上の成果をあげている。検証結果（暫定版）を案通り認め、最終版として良いか？（異議無し）

続いて、資料１－２ 評価結果（案）について、御意見をいただきたい。

○委員

修正意見ではなく、感想であるが、研究成果の社会実装を具体化し、地域の皆様への健康に貢献していく活動を続けることを期待している。

○委員長

評価結果（案）を案どおり認め、評価結果（最終案）としてよろしいか？（異議無し）

< 評価結果案に対する法人の意見申立ての機会付与 >

- ・ 法人関係者入室
- ・ 評価結果（最終案）について事務局説明

○委員長

当委員会の令和５事業年度に係る業務の実績に関する評価結果（最終案）に対し、法人として申し立てられるご意見があれば伺いたい。

○理事長兼学長

中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいると評価いただき感謝する。

評価結果（最終案）に対して意見はない。

「評価に当たっての意見、指摘等」の中でいただいた3つの意見に対して、追加のコメントをしたい。

1つ目、「企業等との連携を推進するため、前提となる大学の認知度の向上に向け、企業とのマッチングの機会の増加に取り組んでいただきたい」という意見について。先週開催されたTECH BEAT Shizuokaに参加したが、インダストリーと協調していく必要性を強く感じた。企業との連携を推進するため大学の認知度向上を目指し、マッチングの機会を増やす事に取り組んでいきたい。

○法人

賀茂・袋井地区に続き島田でもコホート研究を展開している。コホートの進展により様々な人が集まるプラットフォームとなっており、弘前大学、新潟大学、国立長寿医療研究センター、京都大学、中部電力といった多くの方と研究を進めている。更に多くの方が参加できるコホートにしていきたい。

先日、静岡駅で血圧を測る「ウデをまくろう、シズオカ！」というイベントのために本学で作った使った血圧手帳が、協会けんぽでも採用され、増刷して会員に配ったとのこと。このような形で企業連携をさらに進めていきたい。

○法人

企業から見た本学の価値を測りきれないところがあり、マッチング会等を通して、企業からのシーズを模索している。アントレプレナーシップに関する教育や活動も行っている。今後も企業との連携を進めていく。

○理事長兼学長

県民の方々にも我々の大学の活動を知っていただくためニュースレターを出すことにした。認知度向上につながると期待している。

二つ目の医師の働き方改革に関する御意見について。医師が自己研鑽で来ているなら今までとあまり変わらないかもしれないが、オンデマンド授業の活用、金曜日以外の平日夜間の開講、カリキュラムの変更など、我々ができる事を議論していきたい。

○法人

大学での勉強が、自己研鑽なのか勤務時間なのかという問題があるが、複数の病院長から「大学の講義を受けているのは自己研鑽と区分しやすい」と聞いている。

○理事長兼学長

3つ目、「研究活動におけるAIの有効活用について検討いただきたい」という意見について。AIの重要性は承知しており、実際に研究成果の活用段階で使っている。講義の中でもAIの活用という授業もある。将来は分からないが、現時点では研究のコアとなる「創造性ある問いを立てること」は難しいと評価しており、AIの得手不得手も考慮しながら、AIの活用方法を探っていきたい。

○委員長

「法人として評価結果への意見はなし」でよろしいか？

○理事長兼学長

はい。

○委員長

せっかくの機会なので、評価外での、大学院大学の現状や実績についてのご意見や将来に対する期待などがあれば伺いたい。

○委員

学生募集での説明会では、専門職の将来像が見えるような説明で良かった。データを活用して研究を行うだけでなく、それを実装して地域に還元して欲しい。静岡県健康寿命がもっと延びる事を期待している。

修士の修了はどういう基準か？

○理事長兼学長

ベストは修士論文であるが、主は課題研究の発表になっている。内容を審査し、認め

られたら修士と認定している。課題研究発表後に論文にすることもある。

○委員

第1期中期計画の目標は他大学の状況も踏まえて設定しており、現在はかなり良い成績を上げている状態と思う。

質問が2つある。1つ目は、上げた学術的成果を、県民へ健康に関する提案として示していけるのかどうか。2つ目は、寄附者へのフィードバックをどのように行っているか。

○理事長兼学長

第1期中期計画は想定以上に進捗しており、うれしい悲鳴を上げている。第2期中期計画の目標をどうするか考えていきたい。

先に2つの目の質問にお答えする。主な寄附者は褥瘡の体圧分散寝具を作っている会社で、主にそこからの奨学金や寄附講座による研究成果として、得られたデータに基づいた県内各地域の状況や傾向などの報告を行っている。

1つの目の質問だが、既に行動変容を促すためにアプリを作ったりしているが、今後はコホート研究の成果を施策に反映させたり、具体的な地域課題に介入して成果を効果を上げる事を目指したい。

○法人

研究と施策還元・健康づくり活動のバランスが重要では、というご指摘でもあると思う。研究も健康づくりも両方、全力で頑張っていきたい。

○法人

地域別でのデータ解析は論文にならないところがあり、学者としては不慣れなところがあったが、本学は県立の大学として、県健康福祉部との密接な連携により、市町ごとの栄養調査や静岡県が健康寿命日本一になるための分析など、直接的に地域に貢献できる研究を行っている。成果の還元につなげていきたい。

○理事長兼学長

大学の特徴である県との密接な連携や社会実装の重要性を教員に伝え、社会実装活動等を評価基準に含めた。それもあり、子宮がんのHPVワクチンの啓発勸奨が動き、それがマスコミへ出て、それがまた評価につながるというサイクルになってきている。

○委員

素晴らしい業績に敬意を表する。日本の社会健康医学分野において、世界をリードする存在になることを期待している。県と大学が密に連携・サポートしているというのは他にない強みと思う。強みを活かし、世界的なレベルでの活躍を期待する。

○理事長兼学長

県の理解と熱意が後押しになっている。静岡県民のみならず「世界を健康にする」をキャッチフレーズにして頑張りたい。

○委員

良い人材のリクルートが成果につながっていると思う。

○理事長兼学長

人材確保の方向性についても検討していきたい。

○委員長

スタートから３年で予想以上の成果を挙げている。教職員の努力と県のサポートの成果と思う。実績や活動の現状を、全国の大学や研究所にもアピールして欲しい。

○理事長兼学長

今度、静岡で開催される公衆衛生学会でも周知したい。

○委員長

次期の数値目標については、無理ない、それでいて意欲的な目標を立てて欲しい。志願者が尻つぼみにならないよう、広報活動や社会へのアピールを続けていっていただければ。

- ・ 法人関係者退席
- ・ 評価結果を最終案どおりで確定、以後は委員長一任

【連絡事項 1 今後の評価スケジュールについて】

- ・ 資料 2 を元に、事務局説明

午後 2 時 38 分閉会